

# 生き延びるまち～元気あるまちの条件と活性化の実際

～謙虚に自然に学ぶ、銚子には原風景がある

## Ⅰ. 元気あるまちの事例

### (1) 長野県小布施町

#### 1) ホッと安心し、しばしの人生での充電ができるまち小布施

「北斎が人々を小布施に招き、まちは質の高い栗でもてなした」。子供の頃というのはそこにいる風景と一体感を感じながら、素直にその環境そのものを呼吸することが多い。それが静かに積もってその人の原風景ともいべきものを育んでいく。それが「いつか見たふるさとの風景」だ。そこに行くと人はホッと安心するし、しばしの人生での充電ができる。そこにはまた行きたくなる。

#### 2) 住民のための「町並み修景事業」が結果として人を呼んだ

住む人たちのための街ということを小布施は大切にしている。もう20年ほど前になるが、小布施町役場が高井鴻山記念館を作ろうとしたとき、大型バスの駐車場を計画した。そしてそのために個人宅などを移転しようとした。

市村社長など関係者で集まり、それぞれの意向を確認すると立ち退きの対象になった住民2軒も長野信用金庫も、「記念館の公開には協力するがこの場所は離れたくない」とのことだった。観光地にするために住民が犠牲になるのはまずい、それだと月並みな観光地になるので町に、「われわれも考えるから、町も町並みについて勉強して欲しい」と関係者で申し入れた。皆で知恵を絞ってできたプランは「個人2軒には小布施堂の土地を提供して少し後ろに下がってもらい、空いたところに信金が移転、信金の跡地にクリ菓子の小売と飲食スペースを持つ小布施堂の新しい本店を設ける。ほかにも蔵などを一部再配置し、信金と小布施堂本店の間に駐車場を兼ねた広場を作り、高井鴻山記念館への導線を確認するという構想」だった。小布施に行ったことがない人はわかりにくいですが、要するに幹線道路に面していた個人宅を奥まった場所に移し、表通りには長野信金や小布施堂、柘一市村酒造場の店舗を並べる。鴻山記念館もスッと入れる導線を作り、記念館を出ると「栗の小径」と今は呼ばれるクリの木れんがを敷いた舗装路に出て小布施堂境界を自然な流れで散策できるように再配置をする案だった。

この提案を町にしたとき、町は当然ながら良い顔はしなかった。街づくりは町の仕事で、一当事者として加わることにカチンときた。だから半年ほどは色良い返事がなかった。この案の良いところは、当事者同士の中で解決するので補助金が要らないということ。また町は5分の1の立場なので、今回のかなり冒険の要素の入っているプランに乗っかると議会の理解を得られなくなる恐れもあるが、5分の1の立場なので多数決で押し切られたと

の答弁も立ちやすいなど、住民側で説得した。町の理解が得られ、昭和59年に始まった工事が完成したのは昭和62年。出来上がった町並みは、大きな瓦屋根に格子の構えの店舗、ノボリがはためいている広場とそれを囲んでいる土蔵、道路には栗の間伐材を使った舗装材が敷き詰められて、となかなかの趣のあるものになった。

「遊歩道施設など環境インフラに関わる部分は、民間が案分負担する。しかも国から補助金はもらわない。土地は売買せずに賃貸もしくは交換する。新築などに要する個人地権者のローンは、法人と町が支払う地代で充当する。」と「セーラが町にやってきた」（プレジデント社）にある。この「小布施方式」と呼ばれるようになった町並み修景事業は全国的に話題を集めて、小布施を訪れる人も飛躍的に増加した。

さらに周りのいくつかの有力なクリ菓子店も、独自の質の高いデザインを意識して店作りに取り組んで、街づくりが確実に進むことになった。街を歩いて思うのはデザインの素敵な店舗があちらこちらにたくさんあって目立つことだ。感じの良い素敵な街並みになっている。

### 3) 小布施町もバックアップ

小布施町は民間から始まった修景事業をバックアップする立場に回った。「昭和63年に『環境デザイン協力基準』を設け、平成2年の『うるおいのある美しいまちづくり条例』ではまちづくり貢献者の表彰、助成制度を盛り込んだ。平成4年の『住まい作りマニュアル』『広告物設置マニュアル』では景観作りの指針を示している。これらの基準は決して強制や規制ではなく、景観作りの主体はあくまで民間の創意工夫にゆだねられている。」と「遊学する小布施」にある。行政はまちづくりには欠かせない存在だが、民間を応援する立場での参加はほかの地域でも概して成功している。小布施の場合もぜひ参考にしたい。

### 4) 小林一茶も、この街にもてなされ、この街に何回も来た!!

もともとこの街はもてなしということに非常に優れている。唐沢彦三町長が対談の中で語っている。「もともと小布施<sup>びと</sup>人はよそからの人を受け入れようという気持ちが強いんだね。江戸時代、北斎はそれこそ、今の外国人以上に異質な存在だったはずで、それを受け入れた。今から600年ほど前には、丹波の国の荻野常倫から丹波栗を、6～7年前にはカナダ人のウォーラー博士から今の新生病院の前身の結核治療のための新生療養所を受け入れた。」（遊学する小布施）。

この街には小林一茶も頻繁に訪れた。51歳で始めて小布施を訪れた一茶はその後10年間通算260日以上も小布施に滞在した。一茶は幸せ薄い人だった。3歳で実母に死なれ、継母との折り合いが悪く15歳で江戸へ飛び出し、俳諧師となったが豊かな収入もあるはずがなく流浪の生活を続け、10年以上の義弟との財産争いを実家で二分する形で決着したのがふるさとの信濃町柏原にかえっての50歳のとき。そこで始めて結婚するが妻子に相次いで死なれ、あげくに火事で焼け出され、土蔵の中で三度目の妻にみとられて死んでいった。だからもてなしの小布施を何回も訪れたのだろう。ただ、当時の小布施は繁栄していて豪商や豪農たちが漢詩や俳句を楽しむサロンを作っていたことも大きい。やは

りここでも共感ということだ。文化レベルが高く作品に素直に共感してくれるそんな人がいたら、やはり何回も行きたくなる。そんな一茶の気持ち、手にとるようにわかる。

実は、わたしがこの地に滞在して2日目の朝の9時くらいに「小布施ミュージアム・中島千波館」9時半くらいに「高井鴻山記念館」を訪れたのだが、それぞれ開館時間が10時だったにもかかわらずニコニコして中に入れてくれた。5分前でもなかなか入れてくれないのが普通の美術館だから、やはりこの事実一つとっても、もてなしの気持ちがここにはあるのを実感する。

## (2) 新潟県岩船地域のまちづくり

### 「グリーンビジネスの事例・・・新潟県サンボク生業の里」

#### 1) 新潟県でも一番北のはずれの「さんぼく生業の里」

「2日目の7月27日昼食をいただいてその後訪問したのが「さんぼく生業の里」でした。ここは新潟県でも一番北のはずれ、隣は山形県との県境の岩船郡にあります。出迎えていただいたのは、いかにも田舎のおばあさんといった感じの方で、たぶんお掃除する人かなと、これは推測でした。高齢者の働き口は都会でもあまりないわけですので、雇用の創出という意味でも、ここは意味がある????貴重!!!!!!

#### 2) ここは古代織りの一種「しな布」の製作体験がメインの事業

この「さんぼく生業の里」は5人のおばあさんが始めた古代織りの一種「しな布」の製作体験「しな織り体験」をメインにした事業です。こぎれいな、田舎の民家といったかなり大きな一軒家ですが、入ると板敷きにかくさんの昔ながらの機織りの機械がかなりの数が並んでいて、いつでも体験できる体制ができているといった感じでした。

#### 3) 無理はしない!!

ここで面白かったのは、泊まりたいとのお客さんの要望がかなりあるが、ここには宿泊施設は作らないとの総支配人である国井千寿子さんのお話でした。実は先ほどのお出迎えの方は総支配人の国井さんでした。失礼しました・・・。

一番の奥の部屋に10畳以上はあるかなり大きな部屋があつて、宿泊施設を作ることは十分に可能なのですが、そのような依頼があつたら近くの民宿を紹介するとのことでした。

「無理はしない」というのがその理由です。それは、コミュニティビジネスと通常のビジネスとの一番の違いの一つでしょうか。ある施設を有効利用できて、食事宿泊の料金も取れるのですから、採算面でいえばかなりメリットが大きいと思うのですが、そこで働く人たちの働ける範囲ということを考えると無理をして続かなくなるよりも、分をわきまえてそれなりにこなしていくことのようなのです。

#### 4) 「さんぼく生業の里」は副業

ここは林業で食べている町でこの「さんぼく生業の里」は副業との位置付けです。年収ベースでは1人昨年は90万円、今年は100万円くらい、いずれにしてもそれで暮らしていける金額ではありません。「しな裂き」といって指を巧みに操って糸状にする工程があ

りますが、これは近くの家の10軒の主婦が担当しています。副業といった程度ですが、仕事が新たにできることは大切なことです。

#### 5) 一番苦手なのが電話を取ること

メンバーにとって一番苦手なのが電話を取ることだそうです。それを叱咤激励してそれなりの対応をさせているのが国井支配人の指導力。この方の説明をずっと聞いたわけですが、明快で頭の中はすっきりしていらっしゃるし、説得力ある話し方でこの下の人だったら付いていくだらうな、でもちょっときつくだらうな……。

#### 6) コミュニティを中心に中の充実と外への広がり!!

その話を聞いたとき、コミュニティビジネスのあり方も考えてしまいました。コミュニティビジネスでは、自分の一番得意なところを持ち寄ってコミュニティとして、そしてそれを事業として外に展開していく。そのプロセスの中でコミュニティの内部、外部とのコミュニケーションが可能になっていく。ビジネスがそう簡単にいくはずありませんから、問題点を検討したり、原因を追究して解決したりする中でコミュニティの中のつながりが強くなる。喜びとか、辛さとかをしっかりと感じながら同時にビジネスの手ごたえなどもしっかりと感じていく。コミュニティビジネスとは、そんなコミュニティを中心にしたビジネスがだと今回わかりました。そこに必要なのは外への広がりです。国井さんがおっしゃっていましたが、自分達のやることに自信をつけていくことが大切だということ、田舎のしかも地域としては山深いどん詰まりで、猿はもちろん、熊なんかも出る。外からの人もあまりないところで、外部とのコミュニケーションも苦手に決まっています。でもそれだから逆に、暮らしの中のふくよかさや刺激なんかも生まれます。コミュニティビジネスは地域や住んでいる周りや、あるいは自分の得意とするところを周りに広げていく、そのプロセスを大切にします。賃金は低くても、自分が役に立っている喜びや周りの人との接触そのものが楽しい、そのプロセスに価値があるということです。だから生活するための事業は出てこない。お金を稼ぐことが目的になるところには物理的な難しさが出てきます。

この「さんぼく生業の里」もここで働く方の心の豊かさを育む装置としてかなりうまく機能しているようです。そこには国井さんの指導力があつてこそその印象を強くしました。

帰るときにまた国井さんが出迎えの時と同じく手を振っていただきました。そのときの印象は、指導力のあるすばらしいリーダーにお見送りいただいているとの感じでした。来たときとの落差の大きさ!「イヤー面白いな!!」と妙に関心してしまいました。

### (3) 福岡市大名「紺屋町商店会」

「御獅子祭りで良いコミュニティ作り、まちづくりのための指針がうまく機能している」

#### 1) この街には「安心」がある

この紺屋町商店会では、チラシの配布やキャッチセールス、陳列販売の禁止などを示した「街づくりのための指針」がある。「大名紺屋町通り街づくりのための指針」というのが正式な名前。平成12年4月1日からなのですでに3年近くがたっている。この指針のポ

イントは次の3つだ。

## 2)「大名紺屋町通り街づくりのための指針」の主な内容

| 項目          | 内容   |
|-------------|--|
| 街づくり推進組織の設置 | 地域住民、商工業者、関係団体などの代表で構成。関係者の意見を集約し、検討、決定し実行する。関係者、関係団体との連絡調整も行う。  |
| 道路、私有地の維持管理 | <u>維持管理のターゲット</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 道路の清掃・ごみ処理</li> <li>● 駐車・駐輪</li> <li>● はみ出し看板、びら貼り</li> <li>● 騒音</li> <li>● 消臭</li> <li>● 道路上でのキャッチセールス・陳列販売など</li> <li>● 防犯防火</li> </ul> |
| シンボルマークの使用  | 統一された字体・色彩などを用いる。  |

### 3) 毎週金曜日は一斉清掃の日

ルールだけを作っても具体的に実行しなければ絵に描いた餅になる。この街は実行もしている。ちょうど金曜日の午後にお邪魔したのだが、商店街での一斉清掃を3時から実施していた。この商店会の小館泰造会長が商店街の真ん中にある郵便局の脇の放送設備でこれから一斉清掃することを放送する。それを合図に10人弱くらいだろうか、お店から出て来た人が箒とちりとりを持って自店の前を中心に清掃！！これを毎週実行している。町内会や商店街で一番弱いのは統制力だ。掃除の好きな人なんてあまりいない。人の嫌がる掃除を毎週続けることは並大抵ではない。大切なことだが、なかなか続かないのがこの清掃作戦。いつのまにか尻すぼみという例が多い中で、もう7年続いている。

### 4) 皆で力をあわせて落書き落とし

この商店会では落書き落としも皆で力をあわせて実行している。平成13年4月17日の読売新聞に次のようにある。「日曜日の朝。付近の壁や電灯の落書きを落とすため、商店会の呼びかけに応じた24歳から78歳までの20人が通りに集まった。シンナーをかけ、根気よく歯ブラシを動かす。そのうち塗料が溶け、そこを見計らって布でぬぐう。連携が小気味よい。ブラシを細やかに動かしていた浦末和樹さん(24)は美容師。『故郷の大分にはあったけど、都会の真ん中でも、こんな活動をするんですね』。一つの場所の落書きがなくなるたびに会話も弾む。」

いろいろな人が集まり、地域のために「きれいで住みよい街」を目指して、ごしごし歯ブラシを動かしている様子がよくわかる。もくもくと手を動かしているが、一つの落書きが落ちるたびに一息つく。そして会話が弾む。

防犯パトロールも行っている。住みやすい街はまず安全な街、そしてそのような街に人が集まる。街が集客装置になる取り組みが、自然に行われている。

## 5)「御獅子祭り」で心をつなぎ、思いやりの心も育まれる

街に大切なのは一体感であり、それを育むひとつの装置がお祭りである。この街にも「紺屋街子供御獅子祭り」がある。昨年は7月19日、20日に実施された。「ぎゃんぞい、ぎゃんぞい」と、「御願成就」がなまった独特の掛け声と太鼓を鳴らしながら法被をきて鉢巻をし、大小4つの獅子頭を担いで警護神社にお参りし、旧紺屋町を練り歩く。

この祭り、年齢によって役回りが決まっている。小学校3年生は提灯持ち、小学校5年生は小さい獅子頭、中学生から大きな獅子頭を担ぐ。各家庭を回ってもらったご祝儀でお菓子を買って皆に分配するのだが、その分け前も働きに応じて、となる。ということは年齢に応じてもらうものが、違ってくる。そのあたりの感覚、また祭りの準備や、祭りの最中の行動を通して、年長者への「敬意」や年下の子への「思いやり」など見えない大切な心も伝わっていく。この装置も仕組みがうまく考えられ、順調に稼動している。

## 6) 長屋風店舗で話題の路地！本物の路地だから価値がある！！

この街を歩くと多くの若者が来ていることを本当に実感する。九州の原宿といわれるのも若者がたくさん来ているからだだろう。ただし、原宿とはその内容はかなり違う。大名は伝統的な街並み、それもコミュニティ性を十分に持った街の中に現代的な店、アジア雑貨の店や美容院、輸入品衣料の店などがあちこち点在する。例えば「スーパーマーケットヘアー」という美容院。木造2階建ての古い家を改装して美容院にした。素朴でナチュラルな空間づくりをコンセプトに2階建てという条件を生かし、開放感のある吹き抜けとスペインの民家風のインパクトのある外観で話題の繁盛店になっている。この店のように、古い家の、素朴で自然な良さを生かしてそのまま改装して店舗にしたものがこの大名地区には多い。

間口1メートルほどの本当に狭い路地を入るとおもちゃ屋があつたり、駄菓子屋があつたりする長屋風店舗で話題になっている路地もある。もともとアパートだったところに家賃が安いということもあって出店した。えっ！！こんな所に店がある??との意外感も大きい。大切なのはその路地が本物ということだ。ディズニーランドだと作り物の中にあつてまさに仮想の世界なのだが、こちらは正真正銘の本物。その背景には田舎以上にしっかりしたコミュニティがある。心が安らぐ。

インターネットを検索すると大名についていろいろな情報が手に入るのだが、偶然次のようなコメントに出くわした。大名らしさをうまく表現しているので転載する。「うろうろしていたら、こんなところに出ちゃいました。ここのお饅頭、私は大好きです。……。どこからともなくいいにおい。近くにあるお醤油屋さんからのものでした。そして帰り道。こんなおしゃれなオープンカフェを見つけました。」

## (4) 千葉県佐倉市

「回遊性を増す装置がいろいろとうまく機能している。商工会議所が仕掛け人であり、まち出身のボランティアが活躍!!」

### 1) 街を回るのに半日もあれば、歩いてでも十分に足りる

この街を回るのに半日もあれば、歩いてでも十分に足りる。散策にちょうど良い広さだ。 ゆっくりと自分のペースで歩いていけば、今も残る、三つの武家屋敷、そして、昔の殿様である旧堀田邸、順天堂大学の基になった佐倉順天堂記念館、堀田家の菩提寺でもある甚大寺など、歴史の深みを感じさせる文化財が、次々と姿をあらわす。

この商工会議所の平山善之専務が、石垣という雑誌のインタビューに次のように答えている。

「東京や有名都市のような賑わいや雑踏は佐倉にはありませんが、多くの歴史資源や文化遺産があります。 まだそれらが、点として存在しているだけですが、散策路など道を整備し、これらを線で結び、面に広げる努力が続けられています。 東京から電車で一時間、日帰りで十分回れますから、思いついたとき、さっと、何も持たずに来てください。普段着で来てほしいご近所的観光地です。温泉も、立派な街並みもありませんが、何かホッとする場所がある。そんな所です。ゆったりと、心がリラックスできる時間があるなんて良いことじゃないですか」

### 2) 回遊性が増す装置「手作り工房さくら」

さらに、回遊性を増す装置も少しずつ作りつつある。これは文化財を形を変えて、そして、整えて、うまく提供する試みでもある。

例えば「手作り工房さくら」。明治20年代後半の建築で、元種苗店だった旧商家を改装したものだ。京成佐倉駅とJR佐倉駅のちょうど真ん中に、鉄道の線路と並行して走っている旧成田街道沿いにできた商店街の端っこに作られた。

一階が佐倉の自慢の逸品である味噌、落花生、駄菓子、竹炭などや地元工芸作家の作品の展示・販売スペース。 名づけて「高い処」。もう一つは、くつろぎのスペースである「おもてなし処」。昔の商家の奥座敷で、匠の技を鑑賞しながら、抹茶や煎茶を名物の和菓子と一緒に味わえる。二階は「手づくり工房」で、地元で活躍している伝統工芸作家の技の実演と、見るだけではつまらないので、気軽に制作できる体験教室を開催もしている。「機織り、陶芸、竹工房、金工、スタンドグラス……」など、メニューもいろいろと豊富だ。

### 3) ボランティアだから続いている

もう一つ「歴史生活資料館」も面白い。城下町佐倉の歴史や生活、佐倉城に関する資料を展示し、散策や佐倉七福神巡りに訪れた人の休憩所として利用できる。車椅子対応のトイレを設置、佐倉七福神コーナーでは御朱印紙の販売も行う。これは、平成14年12月にオープンしたが、すでに、13,000人以上の人が来館している。地元の人が、アイデアを凝らして企画提案して、何とか、人を呼ぼうとしている努力が実を結んでいる。

ここの街づくりで印象に残るのは、地元の人たちが、ボランティアで力を出し合っていること。 30人くらいの人たちが、入れ替わり立ち代りに、この生活資料館に詰めている。 2~3人で対応しているので、そのうちの一人は、来館者の案内もできる。 それができると、また楽しみという人も多いようだ。

この公民館では市民カレッジを開講しているが、その中の講座に、地元の歴史を知る講座があって、そこを卒業した人が運営の原動力になっている。通常、ボランティアは、続かないといわれる。行動を続けていくには、そのエネルギーになる資金が必要であり、それを稼ぐことで次につながっていく。ここはボランティアだから続いている。それは、このボランティアの原点が佐倉にあることと、その佐倉を、何とか自分たちのアイデアで、昔の賑やかさを取り戻そうとしていることによる。

TMO ニュース第 7 号に、歴史生活資料館ボランティアスタッフの鎌滝通夫さんが書いている。

『昨年暮れ、資料館の展示物をボランティア全員の手によって、開館以来始めて一新し、今年の正月から一階の常設展示「佐倉いまむかし」と、二階の企画展示「佐倉ゆかりの人々」と「佐倉の文学碑」を展示しました。いくらかでも、佐倉の歴史、良き時代の佐倉を、お客様に知っていただこうと、そして、歴史散策の「お休み処」として、お茶などを飲みながら談笑し、佐倉のよさを語っていただこうと、ボランティアスタッフ一同交代で毎日詰めております。

戦後、昭和 30 年代の佐倉新町通りの盛況ぶりを再び取り戻すことは困難としても、当時の新町を知る人々思いに、少しでも近づけることを、われわれボランティア一同は願っています』

#### 4) **ホスピタリティの充実が課題**

TMO では事業展開に向けた方向性ということで、次のサブコンセプトを設定している。

##### サブコンセプト

| 項目      | 内容  |
|---------|---|
| 個性      | 佐倉の有する多彩な人と材豊かな資源を活用し、歴史・自然・文化が感じられる「佐倉らしい」まちづくりを進めます。    |
| 回遊      | 楽しい仕掛けと拠点形成により、ストーリーのみえる「まちの回遊」を形成します。さまざまなルートやネットワークの構築。 |
| ホスピタリティ | 観光客、来街者、地域生活者を、あたたかい「もてなし」をもって迎えます。                       |

この三つの中では、「個性」を生かして「回遊」につなげていることについては、かなりできているが、「ホスピタリティ」についてはまだ足りない。

「これからの大きな課題は、ホスピタリティを膨らませることです。訪れた人々がスムーズに回遊を楽しめるように、もてなしの体制を整えたいと考えています。行く先を示す標識や、ちょっと休憩するための喫茶店やレストラン、観光客の要求に、すばやく応えられるシステム作りに力を注いでいくつもりです」と高橋室長。確かに、この街で休もうと思って、少し苦勞したことを思い出す。このあたりはこれからだ。



## (5) 緑を活かした飯田のまちづくり

### 五平餅でエコツーリズム

#### 1) 五平餅体験

飯田の中心からを車で行くとすぐに山に入ります。1 時間以上走って野沢という地区で、五平餅作りの体験をしました。まずそのご報告。

そこでもらった五平餅の作り方を書いた「健康によい食べ物をつくりだすことが本当の豊かさの追求」と言われます」というチラシが今手元にあります。

野沢の人が作った素朴な五平餅作りの手順書でもいうものです。そこに次のようにあります。

「私たちの住む飯田の周辺には農村文化の歴史の深さを知るとともに、恵まれた風土のなかで脈々と伝わっている祖先の心を偲び、毎日の暮らしや農と食の世界から四季折々の素材を生かした味わい方が年中行事を通して親から子へと受け継がれています。

今日皆さんが体験される『五平餅』もその中の一つとして、この地方独自の郷土料理として育まれてきました。」。

環境は、「今その時」だけでなく、「過去、現在、未来の長い時間」ともかかわります。祖先の方の過去の営みの中で育まれたものが形として残り、子孫に伝えられていく。

まちづくりのキーワードのひとつがこの「営み」という言葉です。「営み」のなかからコミュニケーションが生まれ、コミュニティが豊かにふくらみます。この「五平餅」手作り体験でも、ごはんを団子の形にして丸め、味噌ダレを付け串を刺して炭火で焼くという作業の中で色々の会話が飛び交いました。私など不器用なので、このときとばかり「平松さんは何それ???餅じゃなくて・・・」とワイワイがやがやとする中で交流が深まりました。

祖先の人たちの気持ちがこもっている五平餅ですから、五平餅を作ることで野沢の祖先の人々の気持ちとも交流したわけです。今の空間での交流であり過去の時間との交流でもある、いわば2次元の交流でした。

先程の地球の歴史を考えると、今あるこの緑の環境は、長い地球の歴史の中でできたもの。陸と海ができたのが 41 億年前、海に生命体である原始バクテリアが誕生したのが 27 億年前です。長い年月をかけてこの緑があります。そして祖先の人々の想いも歴史の中で息づいています。

#### 2) 飯田はエコツーリズムに先進的に取り組むモデル地区

この五平餅体験もエコツーリズムの一つです。エコツーリズムは自然環境や歴史文化をその場へ行って体験することです。飯田はエコツーリズムに先進的に取り組む全国 13 箇所のモデル地区の一つに選定されています。農家で寝起きをともにし、一緒に汗を書き、語らう『農業体験』などもあります。

#### 3) 「行政なんてあてにならない。」

この五平餅作り体験の中で印象に残ったのは、お手伝いしていただいたおばさんたちが

とても楽しそうだったことです。自分たちの持っている大切なものを、提供して喜んでもらっているということに手ごたえを感じている様子でした。われわれもけっこう楽しんでいましたので、本当に交流が深まりました。でもそこで聴いた意外な言葉がありました。「行政なんてあてにならない。」これは行政に対する不信感ということではなく、行政に頼るのではなく、自分たちで自分たちのことはやっていくという自立の考え方でした。だから自信をもって来訪者に対応できるのでしょうか。

## II. 「銚子まちづくりへの提言」 ワークショップ

～また来たくなるまち、賑わいのあるまちにするために～

### 中小企業診断協会 東京支部:まちづくり研究会

#### (進行:平松)

私たちまちづくり研究会のメンバーで、平成 21 年 10 月 17～18 日、銚子市に視察研修に行きました。銚子はとても良いまちですが、訪れてみると様々な課題を抱えていることがわかりました。

そこでわが研究会の鹿倉代表の方で、銚子のまちづくりに対する提言の骨子を作成し、その骨子をたたき台にして、研究会メンバーによる今回のワークショップになりました。

まず鹿倉代表の方から「提言案」の内容のご説明をお願いします。

#### (鹿倉)

ざっとお話しします。まちづくりには観光振興、都市計画、商業振興の 3 つの観点があります。

まず、①観光振興分野では、市内観光資源の再構築による destinations 化が重要です。Destinations 化とは、観光での最終目的地化を図ることです。②商業振興分野では、平成 22 年 3 月下旬にイオンが進出予定であることを踏まえて、商店街における安心安全への取り組みが重要です。銚子の物産を扱う「銚子セレクト市場」についても検討したい。更に③都市計画分野では外川地区を中心に提言をしたいと思います。

来年(平成 22 年)3 月下旬に予定されているイオン SC の営業スタートは銚子のさまざまところで大きな影響があります。そこが提言をする上での最大のポイントと考えています。

#### 1. まずイオン SC 進出をどのように考えるか

#### (平松)

ありがとうございます。それではまず、イオン SC に対してどのような手があるのか検討しましょう。

## (竹内)

イオン SC の概要ですが、銚子市の郊外部、屏風ヶ浦の近隣に物販面積 3 万 3 千 m<sup>2</sup>、駐車場台数 2,698 台とかなり大型です。「時間消費型の施設」ですので SC 内で時間を消費した後市街地を回遊させる仕組みがあれば良いのですが、なかなか難しいですね。

例えば、イオンの優れた運営ノウハウを勘案すると、SC 施設内に農水産物の市場を作るくらいのことはやるでしょう。その時に銚子の売りの一つ、魚市場、水産ポートセンターや観光客に人気の嘉平屋のある銚子漁港周辺が素通りされることにならないよう、今から対策を立てておく必要があります。

## (鹿倉)

イオンとの相乗効果は期待すべきではありませんね。イオン SC のお客さんは中心部には魅力を感じないでしょう。それよりもイオンの中に地元の店を入れるという話しを聞きました。それを銚子の駅近くに新しくできた「銚子セレクト市場」が引き受けたらよいと思います。イオンから稼ぐという逆転の発想を持つなども必要です。

## (寺井)

昨年（平成 21 年）の 11 月 28 日に「銚子セレクト市場」を訪問してきました。まだ本格開業・運営には程遠いイメージでしたが、来店客は多かったですね。売り切れの商品もありました。

店舗は銚子駅前の元パチンコ店。広い面積の半分程度が売場で、残りの半分は事務スペースと空きスペースです。この空きスペースをギャラリー等として活用することも可能です。椅子席も用意されており、店舗で購入したものをその場で食べられるような店舗になっていました。

セレクトショップの空きスペースにパソコンを設置していますが、大学生や高校生が来店して使っています。若者の姿が見られないのが銚子駅周辺地区での課題でしたが、この点でセレクトショップの潜在的な可能性が感じられます。

銚子セレクト市場をどのように育成していくかということが、今後のまちづくりではポイントになると思います。

## 2. 中心市街地商店街の対応は・・・

### (河合)

イオンが出て商店街にも大きな影響が出ます。それもマイナスの影響が多いことが予想されます。そこで商店街再生の可能性ですが、既存商店街におけるイオンとの差別化においては、商店主自身が商業者の意識から抜け出して「生活インフラ」としての自覚を高め、住民を囲い込んでいく必要があります。

そのためにもまずは、防犯パトロールや高齢者支援、環境配慮といった公共的な役割を果たす取り組みが必要です。地域からの賛同を得るとともに、商業主自身が行うことで、エコポイントを絡めるなど事業性ある活動として展開していくことも可能になります。

加えて、地元店情報を住民に発信していく取り組みも必要です。銚子市の商店街では、

有志店舗が共同スタンプラリー「まちなか博物館」を実施しています。こうして住民と商店街との距離を縮めて地元の住民に「我が町意識」をもってもらい、住民を地域に巻き込んでいくことが、SCとの差別化へ向けての商店街の一つの行き方だと思います。



#### (鹿倉)

東銀座商店街は特にシャッターが下りている店も多くシャッターを開けて電気つけ、貸し出して自由に使ってもらうなど提案したいですね。いわゆる家守り事業としてまちづくり事業組織がコーディネートしていきます。最初は水道光熱費くらいは負担してもらおう。使いたい人が増えてきた段階で使用料を無料から有料に切り替えていければいいと思います。少なくともアーケードは撤去すべきですね。かなり年代が立っていて、壊れかけているところも多く大げさでなく少々危険です。

### 3. 観光振興は回遊性がポイント

#### (手塚)

モーダルミックスという概念があります。複数の交通手段を合わせることで、移動や輸送を最適化する方法です。

銚子の場合、既存の交通機関を保護、存続する意味で、地域でのモーダルミックスの取り組みが向いていると感じました。例えば、格安の公的機関によるレンタルサイクル（各駅や拠点で乗り捨て可能）の導入などです。パリやロンドンでは導入されています。

また、自転車を電車持ち込可能とすれば、駅から施設との距離がある問題も解決しやすいのではないのでしょうか。自転車の電車内への持ち込みは、熊本電鉄などで行われています。

また、地域のバスと銚子鉄道、レンタルサイクルなどの共通チケットや、高速バスとのパックなども有効ではないかと考えます。

#### (竹腰)

レンタルサイクルを銚子電鉄の各駅に設置するなどどうでしょうか。自転車はどの駅でも乗り捨て自由にします。ロードマップを作成し、銚子駅前から銚子地区を網羅することも可能にします。これは銚子駅を拠点化し、観光バスを引き寄せるひとつのマグネットになるでしょう。

この実現には、自転車で行きたいと思わせる観光拠点や道路の整備も必要になります。

#### (平松)

寺井さんは、1年間地域再生マネジャーとして銚子のまちづくりにかかわっていらっしや

ったわけですが、そのあたりいかがでしょうか。

#### (寺井)

車を使わない徒歩や自転車を使った観光ルートは、私のブログでも何度か提案してきました。たとえば展望館から渡海神社そして外川への下り坂は良い散歩コースなのですが、夏場は草が生い茂って歩道がなくなってしまう。市役所に話したこともありますが、人材も資金もかけられない状況だと思われます。お金をかけない方法を考えることが必要です。サイクリングには、銚子駅周辺や銀座通り、外川海岸沿いなど走りやすい道もありますが、断続的なのが問題です。



#### (吉川)

例えば、観光バスで来た観光客を「地球の丸く見える丘公園」のところに降ろして、バスはそのまま銚子駅前に行き待機する。観光客は銚子電鉄を使って中心市街地に帰る。あるいは自転車でも良いし、銚子電鉄を乗り継いだり、歩いて帰ってもらっても良いですね。

#### (河島)

銚子電鉄は、銚子市の東部を半円弧状に銚子駅から外川駅までの 6.4 キロを単線でつないでいるローカル鉄道です。発祥は、大正 2 年の銚子市の商業と観光地の犬吠を結ぶ銚子遊覧鉄道で、観光は銚子電鉄の DNAではないかと思えます。

銚子電鉄は、副業の「ぬれ煎餅」などの食品事業が黒字であり、平成 19 年度鉄道統計年報を見るとトータルでは黒字であり健闘していると言えますが、鉄道部門の営業損益では赤字です。平成 18 年に車両検査費用の捻出の見込みが立たず、インターネットに「運行車両の点検整備費用を捻出できないので助けて欲しい」と掲載したところ、全国の鉄道ファンから支援の声が沸きあがり、「ぬれ煎餅」が爆発的に売れ、点検費用を賄うことができました。

平成 19 年には、市民等の支援団体として「銚子電鉄サポーターズ」が立ち上がっていますが、現在は活動休止しているようです。

銚子電鉄に勤務する向後功作氏の著作では、銚子のまちづくりの中心に銚子電鉄を位置付けています。「魅力的な観光スポットを銚子電鉄で訪れる」ほか、「駅や沿線の施設で様々なイベントが開催され地元の人も銚子電鉄に乗る機会が増える」ことで「街が活気に溢れる」と述べられています。まちづくりに銚子電鉄を地域資源として活かすという視点です。



### (吉川)

銚子電鉄は駅ごとに特徴があって面白いと思います。私は駅舎に磨きをかければ十分に観光資源になると思います。

### (河島)

内野屋工務店が銚子電鉄のオーナーであったバブル期に銚子駅や犬吠駅などの駅舎がメルヘン調に改築されました。しかしそれらもかなり老朽化しています。いずれにしても、銚子電鉄は「観光の切り口」に更に磨きをかけ観光資源としての重みを増すとともに、地元住民との交流・心のふれあいを通じ銚子電鉄の意義・役割を再認識してもらうことが必要だと思います。

### (遠藤)

駅はかつて、あるいは現在でも人が集まってくる場所に設置されているはずですが。それぞれの駅の立地や市場性を踏まえつつ、公民館やカフェのような地域交流機能、図書館のような文化機能、デイケアセンターや保育園のような福祉機能、美術館やアトリエのようなアート系機能、体験観光施設のような観光機能といった機能を併設し、駅の特徴付けを行うことで、銚子に密着した駅づくりを進めるのも手でしょう。その際には、行政との連携はもちろんのこと、民間企業や地域の各種団体との連携も求められます。

### (竹内)

観光バスのルートを見ると、千葉では成田山まで廻るが、銚子は犬吠崎止まりです。半島全体を巡るバスが見当たりません。客を呼ぶ施設として個々では機能が弱い地球の丸く見える丘公園、外川、渡海神社、銚子電鉄など、隠れた名所の中にポートタワー・ウオッセ21を組み込み、周遊ルート化して売り出すこと等も考えなければこの施設を活かす上で難しいと思います。

### (竹腰)

まちづくりを考える際、街の外から人を呼び込むことと共に、その街に住む人に街に出て回遊してもらうという視点も大切ですが。銚子駅前で開催されているフリーマーケットや外川でのまち歩きなどは、住む人にとっても良い取り組みです。銚子銀座・東銀座・渡海神社など、多様な地域資源を活かして「街歩き拡大」の取り組みを行うといったことは有効です。

### (平松)

地元住民向けと同時に観光客のまち巡りという意味でも、商店街通り沿いの寺社や緑地帯、時計台、漁師御用達の食堂など、何気ない地元資源を発掘してまち巡りルートとして

取り組むことも一策です。

地元住民にとっては当たり前の日常風景でも、外部の人間にとっては、自分と異なるローカルな生活文化や暮らしぶりこそが観光的な魅力となります。

#### 4. 観光振興のもう一つはグリーンツーリズム

##### (諏訪)

銚子の観光に「グリーンツーリズム」を取り入れては如何でしょうか。都市生活者に喧噪を忘れて、のんびりと田舎暮らしの良さを満喫してもらうのです。銚子は東京から近距離で、自然に恵まれた絶好の地です。農業・漁業の実体験を通して生の銚子の生活を味わって頂く。体験メニューを経験するにも、地元の方の豊富な経験と知識に裏打ちされた手助けなしでは何も出来ないことに驚きを感じると同時に、人と人のつながりが深まります。知らず知らずのうちに、体験者は第二のふるさつを見つけることにもなり、リピート率が自然と高くなります。

##### (平松)

グリーンツーリズムは「こちらに来て体験してみよ、そちらで食べてもそれほどでもないでしょう」ということです。例えば「食」は生活の一部です。自分で作ったものをその場の中で、味わい楽しむことが大切になる。フードマイレージ(食料輸送が環境に与える負荷を数値化したもの)なども考えると、これからの低炭素社会への取り組みのひとつの有力なツールであることは間違いありません。ただ、人の移動があるのでそれほど単純な問題ではありませんが・・・。

##### (鹿倉)

グリーンツーリズムでは、宿泊機能と学習体験プログラムが重要ですが、エリアによっては民宿はかなりありそうです。十分に可能と思います。

##### (寺井)

銚子には魅力がたくさんあります。銚子で暮らし始めてしばらくすると、三方を海と大河に囲まれたスケールの大きな景観だけでなく、外川の街並みなどの何気ない風景や表情豊かな空、そして市内各地から眺める夕日が素晴らしいと感じるようになりました。

有名な青魚はもちろん、キンメダイや磯ガキなども抜群においしく、冬にはアンコウやフグが手頃に食べられることに感動しました。キャベツや大根などの新鮮な野菜や、おいしい豚肉があることも来てから知ったことです。



## 5. 観光振興で大切なのはホスピタリティ

### (吉川)

今回、銚子を初めて訪れましたが、意外に東京から近く、ぜひ再訪したいと思いました。

銚子は、インフラ・道路・店舗などが優れています。その反面、街全体の雰囲気づくりについては努力が必要です。昔は街が繁栄していたという街自身のベースもあり、「今のま  
までも何とかやっていける」というムードが街全体から感じられました。

街に来て下さるお客様がいて、初めて街が発展します。街の人達が来街者に対し“この  
街に来ていただいてありがたい”と思うことで、自ずと「もてなしの心」で接するよう  
なる。この「もてなしの心」こそが、街づくりで大切な要素です。

### (平松)

街を回りましたが、細かいところを大切にしていないですね。例えば「地球の丸く見える  
丘展望館」の下の「ふれあい広場」には銚子に点在する国木田独歩等の文学碑のレプリ  
カなどいろいろと素敵なのがたくさんありました。しかし、蜘蛛の巣がいたるところに  
しっかりとありました。渡海神社の灯籠の中が壊れたまま放置されてもいました。小さな  
ものを丁寧に扱うこと、小さな場所を大切にすることなどがホスピタリティのもとであり、  
原点です。とても惜しいなと思いました。

## 6. 都市計画分野では外川地区の街並み保存と土地利用改善

### (平松)

外川地区には他にないまち並みがあります。坂にできたまちは日本には少ないので非常  
に興味深い。狭い坂道、海辺のモーターボートのポート、重なり合うように立っている民  
家など、見ているだけでも楽しいですね。道が狭くて、現在の法律では家を建てること  
ができなくて、そのまま荒地で放置されている土地などもありました。

### (鹿倉)

2メートル程度の道路のみに接している土地には建物が建てられません。朽ちかけてい  
る家屋が散見されましたが、このまま放置しておくともち並みが消滅する危険性がありま  
す。まちの基盤整備は地方自治体の仕事ですが、都市計画事業として街区整備ができるか  
どうか検討する必要があると思います。あるいは、現行の法制度の中でまち並みを保存し  
つつ、家が建てられる方法を検討するための調査事業を、地方自治体の予算で行なう必要  
があるのではないでしょうか。

## 7. 雑感

### (諏訪)

銚子を訪れる際、「安くて鮮度の良い海産物」を買えることを期待していました。しかし  
街中にそのような物は無かったですね。干物を売る店もあつたが値段を見ると高い。常連  
と一見さんで価格が異なるのではないかと思います。それが当然に定着しているようです。  
ここから変えていかなければ始まりません。勇気のある地元の人材を数名で良いから発掘  
することですね。



(平松)

小さいことから実行し、小さくても結果を出し続けることが大切です。人が動けばまちは変わります。まず大切なのは仕組みであり、次に、作った仏に魂を入れる人の存在です。

何より地場を活かすことが大事であり、地場を大切にすることです。そしてそれをホスピタリティで包み込むことが重要というのが銚子のまちづくりポイントということですね。銚子は広いだけに取り組みがなかなか難しいですが、何らか活路は開けると思います。

8. 銚子まちづくり提言の内容

| 分野             | 項目   | 内容   |
|----------------|--|--|
| 商業振興           | 中心市街地商店街の取り組み  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・銚子セレクト市場を活かす</li> <li>・東銀座商店街→シャッターを開放して自由に使う</li> <li>・東銀座商店街→アーケードの撤去</li> </ul> |
| 観光振興           | まち廻り事業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車での銚子廻り</li> <li>・銚子電鉄の利用</li> <li>・地元民のまち歩き拡大の取り組みも進める</li> </ul>               |
|                | グリーンツーリズム  | ・銚子の魅力の再発見。(滞在型農業・漁業学習システムの開発)   |
| 都市計画           | 外川の街並み保存と土地利用改善  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まち並み保存を前提とした都市計画事業の可能性の追求</li> <li>・現行法制度の範囲内で家を建てる工夫を検討する</li> </ul>              |
| これからの取り組みのポイント | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さいことからまず実行し、小さくても結果を出し続けること。</li> <li>・地場を活かすことが大事であり、地場を大切にすること。</li> <li>・ホスピタリティが大切(笑顔と挨拶)。</li> <li>・ときには課題を逆手にとって居直る方法もあるかも・・・。</li> </ul> |  |

ワークショップ参加者の紹介(あいうえお順)

- 市原 実 東京支部 中央支会 1987年登録
- 遠藤 健 東京支部 中央支会 2005年登録
- 河合陽子 東京支部 中央支会 2005年登録
- 河島 孝 東京支部 城南支会 2006年登録
- 吉川秀則 東京支部 城西支会 1988年登録
- 鹿倉勝巳 東京支部 城西支会 1974年登録
- 諏訪弘安 東京支部 城南支会 2004年登録
- 竹内義男 東京支部 城西支会 2009年登録
- 竹腰敦郎 東京支部 三多摩支会 2009年登録
- 手塚大地 東京支部 城西支会 2009年登録
- 寺井素子 銚子地域再生マネジャー

(2007年4月～2008年3月)

- 平松 徹 東京支部 城西支会 1983年登録
- 三橋重昭 東京支部 中央支会 1972年登録

平成 22 年 1 月 26 日

株式会社ソフィア 平松 徹

<http://www.iso-hiramatsu.jp/e-mai>